

A Convergence Framework for Developing Contents in Museum Exhibition

許, 偉隣

<https://doi.org/10.15017/1931923>

出版情報 : 九州大学, 2017, 博士 (芸術工学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名 : 許偉隣

論 文 名 : A Convergence Framework for Developing Contents in Museum Exhibition (博物館における展示コンテンツの開発のための融合フレームワークに関する研究)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

博物館は、進展しているあらゆるデジタル環境やスマート融合技術で変化し、入館者の要求に応えるために取り組んでいる。博物館の展示環境やコンテンツの開発方法も変化しているが、学際的研究に対する実証研究が十分に行われていないのが実情だ。本研究は、こうした熟考から始まった。様々な方法論のモデルを分析して長所を合わせ、博物館のデジタル展示に特化した融合型のフレームワークを示したい。こうした方法論が、単に問題への解決策を示すことだけにとどまらず、文化や技術の融合から入館者中心の「文化サービス」という本質的な価値がきちんと表現する方策にできるかを考察したい。さらに、開発に必要な戦略的代案を示すため、実例に適用してみることで、その妥当性を検証した。その目的を達成するための研究プロセスは以下の通りである。

第一に、博物館展示デザインの変化様相を、デジタル融合環境を基に予測し特性を見出したあと、フレームワークに必要な先決要件とそのプロセスに対して考察した。

第二に、人文、経営分野でも議論されているデザイン融合方法論について分析した。その結果を基に、博物館の展示コンテンツ開発に適用できる示唆点を見出した。人文分野では、価値認識におけるデザインの方法論や社会科学 - デザイン融合リサーチモデルを考察した。経営分野では、リーン先行デザインプロセスモデルと The Digital Engagement Framework を考察した。

第三に、博物館の技術導入展示に特化した融合型フレームワークを提案し、当該のフレームワークを実際のプロジェクトに適用して効果を検証した。

提案したフレームワークである MCF は、先行研究モデルのプロセスと構造を土台にするが、その目的を博物館の展示コンテンツ開発より、限られた目的に合わせて変化させたものである。また、使用者中心の分析を深めることに基づいた人文融合方法論を合わせることで、博物館の本質的な価値や商業性の間でバランスをとったモデルとして提示した。MCF は分析、戦略、設計の3段階のプロセスで構成される。プロセスの各段階をつなぐもっとも基本的な土台であり、媒介の役割を担うデザインキャンバスを疎通のツールとして活用する。10の要素で構成されたこのキャンバスは、ビルのブロック式構造になっており、プロジェクトに参加する誰もが一目でプロジェクトを把握し、素早くフィードバックできる手段になる。

そして、提案したフレームワーク (MSF) の適用プロセスを提示し、その効果を検証するため MCF を通じて国立羅州博物館の展示コンテンツを開発した。博物館で企画展を開き、入館者の評価を受け、その効果を検証した。評価は MCF フレームワークの戦略要素であるストーリーテリングやインタラクションの目的達成の可否を評価するため、それぞれのフォーカスグループ調査やアンケートを行った。

調査結果、展示のテーマや企画意図が効率よく入館者に伝わり、さまざまな媒体を活用した展示が、歴史的なストーリーとともにつながり、入館者の関心や興味を引きだしたことが分かった。また、アンケートによると、動画の特定反応や信号が変化すること、つまり展示の相互作用による楽しさが肯定的な評価を受けた。独自の体験ができる方法の必要性、つまり主導的

な相互作用へのニーズが分かった。

本研究は、現場で適用可能な方法論を示すために、実際に提案するフレームワークを活用して、コンテンツ開発を進め、博物館の展示や評価を通じて実証研究としての完成度を高めようとしたものだ。しかし、開発の結果への入館者の評価にとどまり、実際フレームワークを活用した従事者による検証作業は行われなかった。博物館の従事者を対象に、後続研究を進め、実際の進行過程においてより細部的な効果やフィードバックを検証し、フレームワークを補完していく研究が求められよう。

氏 名 : 許偉隣

論 文 名 : A Convergence Framework for Developing Contents in Museum Exhibition (博物館における展示コンテンツの開発のための融合フレームワークに関する研究)

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

The museum is using various digital environments and smart converging technology in order to respond to the changing demands of the visitors. The exhibition environment and content creating methods are also changing, but the empirical study about the multidisciplinary methodology is currently lacking. This research started from this problem and tried to suggest a converging framework meant for digital exhibits in a museum by analyzing the methodology models in different fields and putting together the positive sides.

The following is the specific action plan to achieve the purpose:

Firstly, predict the changes of museum exhibition design based on the digital convergence environment and analyze their characteristics so as to better understand the prerequisites for a convergence framework and relevant processes. Secondly, analyze the design convergence methodologies discussed in the field of humanities and business management and draw out significant implications for museum exhibition content development accordingly. Thirdly, suggest a convergence framework customized for tech-applied exhibition and validate the effectiveness of the framework by applying it to an actual project.

A exhibition content for the National Museum of Naju was created through MCF. Also, the efficiency was verified through the visitor's evaluation at the exhibition in the museum. The evaluation was done by survey and focus group investigation to determine the goal achievement rate of the strategic components of the MCF, which are storytelling and interaction. It could be seen that the visitors' interest was tweaked by when the exhibit progressed by connecting various mediums with historical story. Also, according to the survey results, the video changing according to specific reactions and signals was a positive aspect in the entertainment factor, and the need for a way to have independent experience, in other words, the need for a dominant interaction was realized.

This research tried to increase the completion as an empirical research by suggesting methodologies that are able to be implemented on the field and use the actual suggested framework to make contents. However, the verification process by the actual workers who will use the framework wasn't carried out. A follow-up study that targets the museum workers has to be made to verify the effects of the actual progress process and feedback to supplement the framework.